

## 週刊 女川湾海況速報 (No.42)

発行：東北大学女川フィールドセンター

東北大学マリンサイエンス復興支援室

5 月 7 日から 5 月 10 日の小乗南防波堤定点と St.1 の海洋観測情報

## 観測点



## 小乗南防波堤定点の結果

①水温・塩分：先週と比較して水温は全層で上昇傾向にあり、7～10℃台を示した。経時的にも期間を通じて全層で上昇傾向にあり、10日には表層（0m）で10℃台を示した。塩分も先週と比較して全層で上昇。経時的には9日に表層で一旦上昇した後、10日には全層で下降した。

水深 [m]	5月7日 (月)	5月8日 (火)	5月9日 (水)	5月10日 (木)
0	8.0 (32.9)	8.3 (32.1)	9.1 (33.1)	10.1 (32.3)
5	7.9 (33.2)	8.2 (33.1)	8.6 (33.1)	9.2 (32.8)

水温の単位は℃。カッコ内の塩分の単位はPSU（実用塩分単位）。\*7日は水深6mのデータを使用。

②濁度：先週と比較して全層で下降。経時的には9日に全層で上昇した後、10日に表層では下降。底層（5m）ではさらに上昇し、1.1FTUを示した。（単位はFTU）

水深 [m]	5月7日 (月)	5月8日 (火)	5月9日 (水)	5月10日 (木)
0	0.5	0.5	0.8	0.6
5	0.8	0.4	0.8	1.1

③溶存酸素：先週と比較して全層で下降したが、11～13mg/l台を示した。経時的には9日に表層で上昇した後、10日には全層で下降し、11mg/l台を示した。

水深 [m]	5月7日 (月)	5月8日 (火)	5月9日 (水)	5月10日 (木)
0	12.6	12.4	13.5	11.1
5	12.6	12.5	12.3	11.8

単位はmg/l。水産用水基準（水産動植物が正常に生息および繁殖ができる値）：4.3mg/l以上。

## St.1の結果

水温、塩分はそれぞれ7.2～9.0℃、33.0～33.3PSUの範囲にあり、鉛直的に水温は水深とともに下降したのに対し、塩分は上昇。濁度は0.4～1.9FTUの範囲にあり、水深15m付近で最大。溶存酸素は10.7～12.3mg/lの範囲にあり、底層（18m）で最小。

5月9日

水深 [m]	水温 [℃]	塩分 [PSU]	濁度 [FTU]	溶存酸素 [mg/l]
0	9.0	33.0	0.4	12.2
5	8.6	33.1	0.6	12.2
10	8.4	33.1	0.6	12.3
15	7.8	33.2	1.9	11.7
18	7.2	33.3	1.3	10.7

本データの利用については、  
東北大学マリンサイエンス復興支援室

Tel.: 022-717-8827

Fax: 022-717-8828

E-mail:

[agr-marin@bureau.tohoku.ac.jp](mailto:agr-marin@bureau.tohoku.ac.jp)

までお問い合わせください。